

令和5年度第1回黒石市中心市街地活性化協議会 議事録

- 開催日時** 令和5年5月29日（月） 午後1時30分
- 開催場所** 黒石市産業会館4階「大会議室」
- 出席者名** 別紙出席者名簿参照
- 資料**
- ①令和4年度事業報告書・収支決算書、監査意見書、
令和5年度事業計画書（案）・収支予算書（案）
協議会構成員名簿
 - ②令和4年度黒石市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する
報告
 - ③黒石市中心市街地活性化協議会規約
 - ④黒石市中心拠点地区都市構造再編集中支援事業（青森県黒石市）説明資料
 - ⑤黒石市立図書館整備事業 説明資料
 - ⑥第1回協議会出欠簿
 - ⑦参画団体施策説明資料（経済産業省東北経済産業局、(独)中小企業基盤整備機
構）

議事の経過

事務局の古川次長より開会を宣し、配布資料を確認。船水副会長による挨拶ののちアドバイザー・オブザーバーの紹介を行い、協議会規約第13条第2項の規定により会長欠席のため副会長が議長に就任。

事務局より、総委員数25名中、出席者16名、委任状行使者9名と発表がなされ、協議会規約第13条第1項の規定により本協議会が設立することが報告された。

- 案件1 令和4年度事業報告並びに収支決算承認について
- 案件2 令和5年度事業計画（案）並びに収支予算（案）審議について
事務局より資料①に基づき説明がなされ、原案通り承認された。
- 案件3 令和4年度定期フォローアップ報告について
黒石市の各部局（下記参照）より、資料に基づき説明がなされた。
 - 資料② …… 黒石市商工観光部
 - 資料④ …… 黒石市総務課財産管理室
 - 資料⑤ …… 黒石市教育委員会社会教育課

その後、アドバイザーである弘前大学教育学部特任教授・北原啓司氏と出席委員からそれぞれ下記の通り意見が出された。

寺山正幸副会長

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でイベントがほぼ中止となり観光客は全くいない状況となっていたが、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下げられマスク着脱もあり観光客の入りがコロナ禍前に戻りつつある。

今後の事業は「こでんてん」、「夜店まつり」、「クラシックカーin こみせ」、「黒石ねぶたまつり」、「黒石よされ」、「こみせまつり」と開催していくのでイベント来場者数は増加していくと感じる。定住数についてはイベントで黒石を訪れもう一度来たいと感じてもらい、住んでみたいと感じてもらうため黒石の魅力を伝えられるような事業を実施していき目標値を達成していきたい。

湯瀬高央委員

昨年は県のガイドラインに沿って「ねぶたまつり」を実施したが、参加団体の参加者名簿の提示やマスク着用等条件があったため参加を断念する団体が多かった。今年は規制がないので、出陣台数は昨年の13台から30台に増加見込み。今年は合同運行の会場や通路にQRコードを設置し市民が良かったと思う団体に投票する制度「市民賞」を設ける予定。市民と一体となったまつりを運営し、中心市街地活性化に貢献していきたい。

工藤勤会計監事

市民サービス施設の横町に面した部分について、以前水回りを設けるといふ説明をいただいていたが、現在どういう状況で工事が進んでいるのか。

また、令和6年3月以降の計画を知りたい。市民サービス施設がオープンした後、本庁舎、産業会館、図書館周辺がどういった感じになるか聞きたい。

黒石市総務課財産管理室 藤本洋平室長

横町に面した部分は、木造で部屋を小分けにした形を想定している。市民サービス施設がオープンした際に、どのようなテナントを入店したら良いか、委託業務するなかでどのような取り組みが良いのか周辺の地域の方々にお聞きしながら完成までに決めていきたい。建物をどのように使っていくか、各施設のイベントの連携も今年度検討していきたい。

石澤照代委員

中心市街地の施設の活用が重要になってくると思う。私は黒石市袋に住んでいるが交通が不便。1～2時間に1度バスが来る程度。中心市街地の施設を利用したくても不便な部分がある。子供の通学、図書館の利用のためにも公共交通の整備もお願いしたい。

長内高昭委員

御幸公園は現在一部駐車場として利用されているが、来街者の駐車場として全面舗装した方が良いのではないか。また芝生にするなども考えて欲しい。舗装されていない部分は雨が降るとかなりぬかるんだ状態になるので利用者にとって不便。

真土亨委員

運動会や競技に使用する場合があるため全面舗装はできないが、今年度、現在の舗装面積の2倍程の広さまで舗装面積を拡大する予定。

北原啓司アドバイザー

まちづくりは「交流人口」から、地域と積極的に関係する「関係人口」へと変わってきた。通過する人数より、地域の人たちが自分たちの地域をしっかりと楽しむことを含めて、歩いて、立ち止まって長い時間そこにいてもらうことが重要。新しい市役所や市民サービス施設を含め「黒石市まちなかエリアリノベーションプラン」を十年かけて、これからしっかりと動かしていく必要がある。

空き屋、空き店舗の面からいうと横町十文字の須藤善百貨店跡「サークルこみせ」を運営している方は黒石出身ではない。クラウドファンディングを実施し460万円の資金を集めた。関わりたい人たち、自分も考えさせてほしいと思うがいるということが黒石の魅力である。ポテンシャルとして活かすべきこと。

黒石を楽しみたい、そんな人たちをもっともっと巻き込んでいく。中心市街地活性化計画というのは、まちなかの人たちの計画だけではなく（外の人を巻き込んでいくと）まちの外から関係したいと考えている人たちのものにもなっていくと思う。黒石はまだ伸びしろがある。この10年で新しい魅力をどう作っていくか、しっかりと皆さんと一緒に動いていきたい。

黒石商工観光部商工課 成田晃一課長

今年度で中心市街地活性化基本計画の事業年度が終了する。黒石市では次の基本計画の策定を検討している。いつから始めるのか、内容などは再度皆様から意見をお聞きして方向性を決めていきたいと考えている。

□案件4 その他（経済産業省、中小機構による施策説明等）

オブザーバーとして出席している各団体より、行っている施策等について説明がなされた。

「中心市街地活性化等支援事業について」

経済産業省東北経済産業局産業部 商業・流通サービス課

佐々木 剛 課長補佐

「中心市街地活性化をめざす街のための中小機構のまちづくり支援」

独立行政法人中小企業基盤整備機構 高度化事業部まちづくり推進室

下田 孝志 中心市街地サポートアドバイザー

以 上